

令和 5 年度実績報告書

令和 6 年 3 月 21 日

公立千歳科学技術大学
学長 宮永 喜一 様

公立千歳科学技術大学特別研究等助成要綱第 7 条に基づき、下記のとおり報告いたします。

| | | | | |
|------------------|---|-------|------|------------------------|
| 報告者 | 所属 | 共通教育科 | 職名 | 教授 <u>准教授</u> 講師 助教 助手 |
| | 氏名 | 山下 文 | ふりがな | やました あや |
| 研究課題名 | 『千里集』の複合動詞の研究 | | | |
| 本研究費による発表論文、著書など | 山下 文 (2024) 「歌ことばとしての複合動詞の生成—「扱き入る」「扱き混ず」を中心に—」『公立千歳科学技術大学紀要』5、公立千歳科学技術大学、37～48 ページ、単著。 本研究費に関わる部分は、「6. むすびにかえて—歌ことばと複合動詞」 2024 年 3 月 21 日現在は未発刊 山下 文 「『大江千里集』の複合動詞—句題と和歌の比較を通して—」淡江大学 2024 年日本文知国際シンポジウム、2024 年 4 月 27 日、於淡江大学淡水キャンパス (台湾新北市) | | | |

研究成果報告

研究の目的と方法

論者が最終的に目指すのは、古代和歌における複合動詞（動詞連用形＋動詞の形態を取る表現）のあり方を明らかにすることである。その最終的な目的に向けて、本研究では大江千里（生没年未詳、9世紀半ばに活躍）の私家集『千里集』中の複合動詞の中でも、前項後項ともに語彙的な意味を保持したVV型複合動詞を取り上げる。分析にあたっては現代語と古代語の複合動詞の振る舞いの違いに目をくばりつつ、『千里集』中の複合動詞の生成と展開を論じる。また、古代語複合動詞の句構造を $vp[vp[項+V1]V2]$ と捉える青木博史氏の説を取り入れたものである*1。

研究内容とその成果

『千里集』は漢詩句題を元に詠まれたいわゆる「句題和歌」であって、和歌表現を句題と比較することが可能である。『千里集』には延べ語数で61、異なり語数で45の複合動詞が見られる。そのうちVV型複合動詞は、延べ語数が32、異なり語数が27全体の約半数を占めている。

中でも以下の和歌中の「吹き送る」は、漢詩句題「吹送」を直訳した表現だと言える。

夜風吹送毎年春

はかなくて空なる風の年を経て春吹き送ることぞあやしき (千里集 9)

和歌において「吹く」を前項に置く複合動詞は少なくない。『万葉集』以来、「吹き返す」「吹き来」「吹き漂はす」「吹き乱る」などが複数見られる。ただ、『千里集』の「吹き送る」については千里以前の用例はなく、千里以後も平安末期（親盛集 44、小侍従集 26）まで用例は見いだされない。現代語複合動詞では原則として一つの語彙と見なされる。この千里歌においても「空なる風が春を吹き送る」のように、「吹き送る」全体に共通する一つの主語と目的（空なる風・春）を取っていると見なすことが可能である。ただし、青木氏の述べるように前項動詞と後項動詞を結びつけているのが、連用形の「句を作る」を機能であるとするなら、前項動詞と後項動詞の項（ガ格・ヲ格・ニ格）は個別に切り分けて考える必要がある。また、前項動詞「吹く」が自動詞で後項動詞「送る」が他動詞であることも念頭に置くと、「空なる風が吹き春を送る」のように、後項動詞のみが目的語「春」を取っている見なすべきであろう*2。千里「吹き送る」は文法的・統語的に正確な語順に則ったものとは言えない。

このようなことから、和歌に見られる複合動詞の中には、文法的・統語的にはセオリー通りに解釈できないものがあるといえる。和歌は修辞を多用する文芸的な物言いなのである。和歌に見える複合動詞を論じる際には、文法と修辞の両方がその生成に関わっていることを踏まえることが極めて重要だといえるのである。

結論、および、今後の展開

本研究は『千里集』のVV型複合動詞「吹き送る」を通して、和歌表現としての複合動詞の生成と展開のあり方を追ってきた。和歌を研究の俎上に取り上げる際には、文学的研究であれ語学的研究であれ、修辞と文法を複眼的に捉えることは不可欠である。今後は複合動詞表現を個別に取り上げて論じるだけでなく、歌人らがどの程度文法的な規範意識をもって歌作を行っていたのかを、より深く論じていきたい。

*1 青木博史（2013）「複合動詞の歴史的変遷」『複合動詞研究の最先端』、ひつじ書房、215～241頁。

*2 また、句題「夜風吹送毎年春」においても、「毎年春」を目的語とするのは後項動詞に相当する「送」のみであると見ることができる。これは中国語では目的語は原則として動詞よりも後ろに置くためであるが、この中国語の語順が和歌にも影響を与えた可能性も念頭に置く必要がある。